

2021年4月9日
SOMPOホールディングス株式会社

石川県七尾市でケアラー支援モデルの実証開始 ～シニアの”Well-being” 実現を目指して～

SOMPOホールディングス株式会社（グループCEO執行役社長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）は、七尾市矢田郷地区まちづくり協議会（会長：飯田 伸一）と連携し、七尾市矢田郷地区において在宅で家族を介護するケアラー^{※1}を支援する新しい在宅介護モデルに関する実証を開始し、シニアの”Well-being”^{※2}実現を通じた社会課題の解決に貢献することを目指します。

1. 背景・目的

SOMPOホールディングスは、さまざまな社会的課題のソリューションを構築すべく、地域と連携したシニアの”Well-being”に資する取組みを開始しており、地域でケアラーを支え合う仕組みづくりを後押しします。

七尾市は、人口51,220人（2020年11月末現在）に対して高齢化率が37.0%（2019年9月末現在）に達しており、全国平均26.6%と比べても高齢化が進んでいる地域です。高齢化に伴う社会課題が顕在化する中、家族介護者の増加もその課題の一つになっています。2020年度から5年間の新たな市政指針となる第2期「七尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、基本施策とSDGsの17の目標の関係を明記し、七尾SDGsコンシェルジュが存在するなど、パートナーシップを通じた社会課題解決に尽力しています。

2. 実証の概要

SOMPOホールディングスは、全国で400万人以上^{※3}と推測される在宅で介護をするケアラーの負担軽減と要介護者に対するケアの品質を高めることを目的に、ケアラー自身が参加できるサロン運営の実証を行います。本実証を通じ、ケアラーおよび要介護者本人を起点とした地域でのケアラー支援モデルの将来的な実現を目指します。

ケアラー向けサロンとは、地域のケアラーの方々を訪れ、介護知識・ケアの技術に加えて、在宅介護を負担にしないマインドセットや、在宅介護の生活の中で、スマホなどのデジタルツールの便利な使い方を学ぶことができる場で、オンラインでも参加可能です。また、近隣のケアラー同士がサロンに参加することで、地域での繋がりが生まれることも期待できます。

今回の実証では、ケアラーが抱える「孤立」と「不安」を解決する場として、地域と連携したサロンが機能するかを検証します。

サロンは2021年4月～6月の期間で計5回（4回のテーマ別サロンと1回のフォローアップ）のワークショップ型です。七尾市矢田郷地区まちづくり協議会と連携し、七尾市の後援もいただきながら、SOMPOホールディングスがコーディネートします。

3. 今後について

SOMPOホールディングスは、地域の実情に合わせたシニアの”Well-being”に資する取組みを通じて、さまざまな社会的課題のソリューションを提供していきます。今後も、デジタルを活用して、人々が自分らしく豊かに生きることができるスマートコミュニティの実現に取り組んでいきます。

※1 ケアラーとは、介護や看病、療育が必要な家族や近親者を無償でサポートする方を指します。

※2 “Well-being”とは、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態（WHO定義）を指します。

※3 居宅（介護予防）サービス受給者数は、3,975,193人（厚生労働省「介護保険事業状況報告（暫定）」（2020年11月償還給付決定分）より）であり、サービス受給者一人あたり一人以上のケアラーが存在すると仮定した推定です。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

SOMPOホールディングス株式会社

シニアマーケット事業部 足立 伸也（TEL：070-3833-6078）

広報部 小田 招子（TEL：03-3349-3722）